

## 中国はキリスト教を必要としている

先の中国訪問の際、ブッシュ大統領は中国当局に宗教の自由を認めるべきというメッセージを伝えた。最近の20年、中国は自由経済への道を突き進んでいる。しかし、この変化は社会に深刻な傷跡を残した。教皇庁の海外宣教会で働く宣教師で『アジアニュース』通信社の編集長 Bernardo Cervellera 師は、「中国の魔術」の裏にある問題と宗教がこの分野で果たす役割について説明する。

(注、アジアニュースは、中国語(広東語)、英語、イタリア語でニュースを報道している。[www.asianews.it](http://www.asianews.it))

\* \* \* \* \*

- マスコミは中国経済の発展を強調するばかりで、その社会の現状についてはあまり話しませんが…。

B.C. 最近のことですが、イタリアの財界人の会合に出席しました。中国における自由の欠如や社会問題について話すように頼まれたからです。統計の数字はどこにでも見いだされるが、知りたいのは人々が現実にどのような暮らしをしているか、だ。それこそ経済に大きく影響するものだからだ。でなければ、現実のバーチャルな展望しか持てない、と言っていました。

それで、どう話したのです。

B.C. 現在の状況は中国に共産主義が入ったときと非常に類似しています。つまり、貧困、政治の無策、腐敗、国や地方の当局の暴力が随所に見られる点です。対立の大部分は、基本的人権が踏みにじられ無視されていることから来ています。最も急を要する課題は農民の土地所有権です。共産党は経営者にのみ土地所有権を認めているからです。別の点は、搾取されている労働者がそれにブレーキをかけることができるような組合をつくる権利です。皮肉なことですが、蒋介石の国民党政府に対して中国共産党が要求したことの一つが労働組合を作る権利でした。現在は共産党がそれを拒んでいるのです。そのほかに、都市に移住できる権利、情報の自由、公の討論の自由があります。

これらのことに、全国津々浦々に広がった腐敗を付け加える必要があるでしょう。一例を挙げると、2002年には中国で長者番付のトップ10人が前年度の税を脱税していたことが判明しました。しかし、腐敗に対する戦いは困難を極めます。というのは、共産党と経済界と司法当局がつながっているからです。これらのすべてのことが庶民の心に怨恨を植え付けています。不正に苦しんでいるのは国民の大部分ですが、当局は彼らが不満を表明することを厳しく取り締まるからです。

現在多くの人々が中国を褒めますが、中国は愛されているというより恐れられています。我々がこういうことを言うのは、中国を愛しているからです。当局はもし国を発展させたいなら、これらの不正を矯正しなければならないことを知っています。

### 国民の不满を恐れる政府

- 共産党と政府の反応はどうですか。

**B.C.** 首相と大統領は我々が9ヶ月前に言っていたことと同じことを言っています。政府は黙っているが、社会の貧富の差の拡大、失業者が増大、農民の不満、などが1989年の天安門の暴動よりも大きな反政府運動になることを恐れています。しかし、指導者たちはこれらのファクターを無視したいようです。1979年に鄧小平が「四つの近代化」(農業、科学、軍隊、技術)を宣言し、中国が経済発展の歩みを始めたとき、一人の貧しい電気工 Wei Jingshen は、五番目の近代化、すなわち民主主義の必要性を説いたところ、彼は13年の禁固刑、その後国外追放の憂き目に会ったのです。これと似たようなことが今日も起きます。つまり、成功面だけを見て、負の面から顔を背けることです。

ということで、共産主義政府の成立(1949年)から半世紀以上、中国共産党結党(1921年)から80年の後で、労働者の天国となるはずが、実際は地獄が出現したのです。労働者の独裁となるはずが少数の共産党員の独裁政府が。平等社会が生まれるはずが、驚くべきほどの貧富の差が見られる社会が生まれ、しかもこの格差は日に日に広がっているのです。

## 宗教への関心

- そのような状況の中で宗教が置かれている位置はどうか。

**B.C.** 興味深い現象ですが、共産党からの離反と平行して宗教への関心が高まっています。中国における共産主義の歴史を書きたいならば、中国共産党の最大の失敗は、4300万の餓死者(党も認めている数字)を出した「大躍進運動」でも、社会を破壊し混乱の極みに陥れた「文化大革命」でもなく、その宗教政策であったことを認めざるを得ないでしょう。今をさかのぼること半世紀も前に共産党は礼拝の終焉が間近に迫ったと宣言しました。にもかかわらず、諸宗教団体の門をたたく人の数は増え続けています。政府公認の統計によると、政府のコントロールを受けている宗教団体に属している人は、1億人を数えます。この数にコントロールの埒外にいる何百万の人を加えねばなりません。この事実は、共産党が政権を取って以来、中国では無神論のイデオロギーの執拗な宣伝、反宗教のキャンペーン、信者に対する迫害、投獄、社会的差別が休みなく行われてきたことを考えると、驚くべきことです。

この宗教がこのように再生している原因は、共産主義の理想が、党員たちの腐敗やいわれない暴力、特権を振りかざす態度によって地に落とされたことに求めるべきです。また唯物論の冷酷さも関係があります。かつての紅衛兵が、社会の現状に絶望し、また特に過去に犯した暴力行為の悔悟から心の平和と安寧を求めて、伝統的宗教やキリスト教に近づくことは珍しいことではありません。キリスト教は、罪を赦すという点と、個人の苦しみに意味を与えるという点で魅力があるようで、仏教の輪廻説や老荘思想の楽観的な相対主義よりも好まれています。

- 中国におけるカトリック教会について話すとき、ローマ教皇に忠実な「地下教会」と政府に属する「愛国会」の区別をしますが、現在の状況はどうか。

**B.C.** 現在のこの区別は消えつつあります。カトリック教会は、現在1200万人以上の信者を擁していますが、日に日に一致を強めています。「愛国」と呼ばれている教会の司教の85%が教皇と和解しています。これらの司教は自分の信者とともに政府の「公認」教会に属しているが、教皇に従います。現在、「公認」教会と「非公認」教会という呼び名が使われていますが、

この区別は政府がしているものです。事実ベネディクト16世教皇は今年10月に開かれたシノドゥス(世界司教会議)に4人の中国人司教を招待しました。二人が「公認」教会の、一人が「非公認」教会の、残りの一人がつい最近政府に公認された「非公認」教会の司教でした。

「地下」教会は、非合法組織として迫害され続けています。「地下」教会の信者は犯罪人とされています。そのわけは、彼らが信教の自由を主張するからですが、この自由は中国の憲法で認められているのです。カトリック信者で暴力的な蜂起に関わった人は、たとえ迫害者に対しても、一人もいないと言わねばなりません。彼らは「政府に反して陰謀をたくらむ」と非難されますが、彼らの中に一人のテロリストも扇動者もいません。

しかし、「公認」教会も迫害されていて、決して自由ではありません。私は、警察の許可なしには何もできなくて困っている「公認」教会の司教たちを知っています。警察は司教が何をするのか、誰と会うのかを逐一チェックします。私が知っている「公認」教会の神学校は、毎週治安当局の検査を受け、そこで教えていることが共産党の教えと同じであることを示さねばならないそうです。

## 二種類の迫害

- 現在の迫害はかつてほどひどくないようですね。

B.C. 実際は中国には二種類の迫害があります。一つは「スターリン流迫害」(暴力と投獄からなる) もう一つは「儒教的迫害」とでも呼べる(宗教を統治の道具にしようとする)ものです。この二つは同時に並行して行われています。スターリン流迫害は水面下で行われていますが、現実のもので、儒教的迫害は、より公に見えるところで進行しています。このバランスがどちらかに傾くように見えるときがあるのは、その時に外国のメディアによる人権擁護の声が高まるときとか、あるいは共産党の中に意見の分裂があるときです。いずれにしても、二つの迫害を推し進めようとする中国の指導者たちは、ばかばかしい様相を呈することになっています。つまり、宗教的自由を望む声を押さえ込むために、宗教的な議論を真剣にするという姿です。コーランを教える仕方はどうすべきか、チベットのラマ選出の儀式はいかにあるべきか、「よい」プロテスタントと「悪い」プロテスタントの教団はどうやって見分けるべきか・・・などという議論を、自ら無神論者を自称する人々が延々としているのです。

- この状況の中での「愛国会」の役割は何ですか。

B.C. 「愛国会」は中国のカトリック教会の喉につきささった本当のとげです。愛国会は1957年に毛沢東によって創設された組織で、中国の信者をローマ教皇から切り離し、彼らを自分たちのコントロールの下に置くためのものです。この組織は、共産党の黨員(その大部分は無神論者)からなり、教会生活のあらゆる面に介入しています。たとえば、礼拝の場所、時間、神学校の生徒と教授、その給与などなどを決め、また司教や主任司祭の人事、はては修道者になりたいと思うものたちの召出しの有無についても決定しようとします。要するに、司教と同じ権限を持つようとし、司教や司祭たちの苦しみのもととなっています。また、教会の収入も横領します。

「愛国会」は、今では中国に絶滅寸前の共産主義に凝り固まったスターリン主義者たちが住

む博物館のようなものとなりました。はっきりさせておきべきことですが、中国では今では誰も共産主義を信じてはいません。共産党の党員でさえ同じです。

現在、多くの共産党員が党を離れ、経済の世界に飛び込み大金持ちになっています。しかしながら、愛国会の党員は最もイデオロギーがかった人たちで、同時に人間的にはぱっとしない人々です。

\* \* \* \* \*

## バチカンとの関係

- 北京がバチカンと外交関係を結ぶ可能性はありますか。

**B.C.** バチカンは北京と外交関係を結ぶことを望んでいます。それは中国の発展がより人間的で調和のとれたものになるように手助けしたいからです。この意味で、信教の自由は経済的な発展にもよい影響を及ぼすと思います。中国もバチカンとの外交関係の樹立を望んでいます。それは、そうなれば、国際社会における中国のイメージの改善に寄与するからです。2008年までには具体的な手順が決まると考えられています。

問題は中国政府が以前お話しした社会的問題を気にするあまり、バチカンとの関係を二の次に考えていることです。聖座と関係を結ぶことが、中国社会が必要としていることの一部、すなわち和解、赦し、相互の扶助など、イデオロギーではどうしようもなく、強い精神性によってしか与えることのできない価値を提供するという事に気付いていないのです。中国はこれらの精神的価値を必要としています。外交関係樹立のための真の困難は、台湾問題ではなく、信教の自由にあります。

- なぜ信教の自由を認めることは拒むのですか。

**B.C.** 中国政府は、カトリック教会が国内に醸成された不満のすべてを爆発させる起爆剤になるのではと危惧しているのです。しかし、現実とは逆です。地下で活動することを余儀なくされているにもかかわらず、多くの宗教の信者たちは孤児のための施設や障害者たちの家を開いたりして、中国社会の必要に応えようとしています。信教の自由によって、共産党が恐れている衝突を平和的な仕方で解決することができるはずですが、信教の自由は社会にも経済にも寄与します。対外的には諸外国の好感を得て、対内的には国民の連帯を可能にするでしょう。高い自殺率と腐敗で特徴づけられている社会に道徳性をもたらすことになるはずですが、もう何年も前から、北京の科学アカデミーは、民主主義と信教の自由が現在進行している経済的な変化を保証するために必要だと指摘しています。それなしには、中国は空中分解の危険があります。

- ヨハネ・パウロ2世の葬儀に中国政府が公式の弔問使節を送らなかったことは、注目されましたね。

**B.C.** それは中国政府がローマ教皇、中でもヨハネ・パウロ2世に対して持っている反感に就いたものです。中国当局は、ヨハネ・パウロ2世が東欧の共産党政権を打倒したように、中国

政府の転覆をねらっている政治的人物と考えています。それだけでなく、ヨハネ・パウロ2世の死を機会に、教会にクーデターのようなものが起こると予想していました。つまり、司教たちの間で権力を巡る闘争が起こる、と。教皇職を何か強大な権力の座のように考えて、すべてを政治的に判断しているのです。彼らにとって、権力を奪うためではなく祈るために人々がいるんな教会に集まっているのを見るのは、大きな驚きでした。

当局は、特にヨハネ・パウロ2世の葬儀に参加しなかったことを後悔しています。と言うのは、全世界から彼らが頑固な反動思想の持ち主として指弾されたからです。そのときから、中国政府はバチカンの友人で、教会に興味を持っているものであることを示そうとしています。政府の対応はそういうものでしたが、国民にとってはヨハネ・パウロ2世の葬儀は福音宣教の大きな機会となりました。大勢の群衆が死を悼むためにローマに集まっているのを見て、驚きを隠せませんでした。・・・このことは教皇とキリスト教に対する好奇心を新たに引き起こしています。

### 知識人のキリスト教への興味

- この興味はどういう面に現れているのですか。

B.C. キリスト教は、科学者、教授、学生といった層の人々に特に評価されています。彼らにとって、伝統的宗教は神話的で欺瞞が多いが、キリスト教は理性を満足させるように写っています。三ヶ月前のことですが、1989年の後パリに亡命した Cai Chongguo 氏がローマに私を訪ねに来ました。彼は私に中国でずたずたにされた社会の網を縫い直す必要があると熱く語りました。多くの知識人によると、現代の問題の多くが、何千年もの歴史を持つ中国文化の中に、普遍的な絶対的な原理が欠けていることに原因があるとしています。つまり、老荘思想、仏教、儒教、実証主義、マルクス主義などは、人格神という考えを排斥し、そのために人間が生まれつき持つ権利を尊重するシステムを構築することができないのだ、と。

- キリスト教に改宗する人は増えているのですか。

B.C. 先ほど言いましたように、共産主義の失敗と新しい消費社会の価値観に失望して、人々は人間の存在について様々に質問し、あるいは自分がそのために命をかけた共産主義の理想に幻滅したことを考えています。そのうちの多くが、これらの質問を通して、キリスト教の信仰に至っています。成人の洗礼の数は、毎年だいたい15万人前後です。できる範囲で形成を受けてからです。大都市では、6ヶ月のカテケシスをします。(後略)。